

データが集約化されていない問題

医療ではデータが分散化されているケースが多くみられる。 各病院は、情報漏洩のリスクを避けるために、基本的に院内のネットワークは外部ネットワークとつながっていない。例えば、電子カルテの仕様をみると、開発しているベンダーごとに形式が異なることが多くあり、病院間で使用している電子カルテのソフトウェアのバージョンが異なれば、統合ができない状態にある。この問題については、日本のみならず中国を含む全世界共通だと言っても過言ではない。医療AIの分野において先進国である米国のマサチューセッツ州ボストンであっても同時に20を超える電子カルテのソフトウェアが起動しており、これらに互換性はない。

集約化されていないデータに対して、世界的なアプローチは電子カルテの共通形式を普及させることである。電子カルテのソフトウェアが病院間で異なっているとしても、それらのソフトウェアが統一された電子カルテの形式で入力と出力を受けられれば、データ統合はより一層容易になる。現在、最も有名な共通形式はFHIRと呼ばれるものがあり、研究開発と普及が進められている。